

令和2年度 たつの市まち未来創生戦略推進委員会

日 時：令和3年3月26日（金）

午前10時30分～正午

場 所：たつの市役所災害対策本部(兼)大会議室

出席者：委員17名、市長、事務局

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

- (1) 令和元年度たつの市まち未来創生戦略推進委員会委員意見に係る取組状況について
- (2) 国の経済・社会状況
- (3) たつの市の現状について
- (4) 「たつの市まち未来創生戦略」基本目標・施策の検証及び評価について
- (5) 主な取組について
- (6) 国の認定を受け進めた本市の創生戦略事業について
- (7) 令和3年度子育て支援施策等について
- (8) アクションプラン事業の一部見直しについて

4 意見交換

5 閉会

－委員長挨拶－

本日は、ご多用の中、お集りいただきありがとうございます。また、コロナ禍の中、本委員会にご参集いただき心より御礼申し上げます。コロナの影響は、本日の資料のデータを見ていただければ一目です。とは言え、コロナの影響によって、「地域が目覚める」「地域にチャンスがまわってきている」こともデータから分かると思います。交流人口や経済活動の停滞の一方、都市圏から地方への人の流れが生まれている。人々の意識も変わってきている。ピンチをチャンスに生かす。美しい自然、古くからの町並み、程よいソーシャルディスタンスが取りやすい人口密度。このまちを生かしていく創造力、企画力が問われている。「雇用創生」「人口還流」「若者未来」「地域活力」の4つの柱をもって、なんとかこのたつの市を魅力あるまち、市民が誇れるまちにしなければならない。これは、市民の方の支えがあってできるものであります。本日は、「何が出来ているのか」「何が出来ていないのか」「来年度以降、何を中心にしていくべきか」を各分野からご参加いただいている皆様の貴重な意見をいただければ幸いです。本日は、よろしく願いいたします。

－会議要旨－

事務局より、取組状況等の説明を行い、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり

協議事項

- (1) 令和元年度たつの市まち未来創生戦略推進委員会委員意見に係る取組状況について
- (2) 国の経済・社会状況
- (3) たつの市の現状について
- (4) 「たつの市まち未来創生戦略」基本目標・施策の検証及び評価について

委員	資料②で地方の若者の就業率が上昇しているところがあるが、若者人口が減っているのに就業率が減少しているのはなぜか。
事務局	地域で就職している人数が減っていなかったり、減っていても割合として見た時には、分母としての若者の人数が減っているため数値が増えていることが考えられる。就業率とは、15歳以上の人口における就業者割合であり、人口減少には比例しない。
委員	9ページで地区ごとの人口の増減の数値があり、2地区が増加していて、これは住宅の分譲などがあったものかと思われる。土地の規制もあるが、住宅が建てられる地域を増やす取組を進める必要があるのではないかと。幸いにも大きな災害がたつの市は少ない。PRできる要素もある。
事務局	本市では、兵庫県の特別指定区域制度を活用し、建築規制のある市街化調整区域においても住宅建築できるように区域指定を受けています。特別指定区域制度には、同一小学校区の市街化調整区域に10年以上居住した方が建築できる「地縁者の住宅区域」と誰でも住宅建築が可能な「新規居住者の住宅区域」の区域指定の2つの住宅建築のメニューがあり、この制度を活用し、市街化調整区域にあっても人口を維持できるよう取り組んでいます。
委員	人口を増やしていくには、住宅建築の規制の緩和が重要であり、改善できればと思っている。ご検討いただきたい。 コロナで雇用にも影響していると思われる。市内には田んぼも多くある。放棄田も増えている。農業に関連して雇用が生まれ出せないか。神戸市では、高齢化で農業が営めなくなった地域を5つぐらいの営農組合が合同でなんとかしようとして取り組んでいる。また、地球温暖化の問題もあり、SDGsの考えのもと地球にやさしい大豆ミートの取組など、空いている農地などを活用して雇用を生み出していくような持続可能な社会に向けた取組を検討いただきたい。
事務局	たつの市では、学校周辺は、家が建てられるなど、いろんな制度をやっている。転入された方に、どういう理由でこの地区を選ばれたかを聞くと、15分圏内に商業施設や駅、病院があるなどを重視して選んだと言われていた。今後、まちづくりをしていく中で、コンパクトシティのまちづくりを進め、その区域に来ていただくことが施策の重要なところと考える。そうすると郊外には放棄田が増えていくので、そういう場合は、営農組合などに声をかけ、多角化していき投資を抑えた儲かる農業を進めて、農業を発展させていくことが今後のやり方と考える。
委員	商業施設があるところとないところがある。ないところはコミバスで行ってもらったらいいかもかもしれないが、地域によっては、商業施設が足りてない部分がある。コンパクトシティを目指すなら、学校の周りや駅近くに商業施設がたくさん出来ればまちも変わってくると思うので、誘致などにも取り組んでいただきたい。
事務局	総合的に考えていかないと、一部分だけをやっても、難しい部分がある。今後のまちづくりの中で考えていきたい。
委員	御津は経済圏が網干や広畑である。そこへの交通手段がない。山陽電鉄網干駅から市民病院までは1日数本ほどあるが、その他はない。企業によっては、通勤が公共交通機関に限られているところもある。その場合、本竜野駅へバスで行き、姫路へ行っている。朝はあるが、夜はその手段はない。御津であれば姫路、揖西であれば相生など広域で考えられないか。
委員	路線バスやタクシーなど地元事業者との関係も踏まえて、考えていかなければな

	らない問題ととらえている。
事務局	おっしゃられている路線は、路線バスの事業者としては、赤字が続いている路線で廃止にしたいという申し出が以前、市へあった。当時、市では、デマンド交通とコミュニティバスについて検討しているところであった。デマンド交通を導入するに当たって、他の公共交通が走っている場合は、許可が出なかった。その路線のバスに実際に乗車したが、通勤・通学の時間帯には乗客がいたが、昼間は0人の時間帯が続いていて、路線バス事業者としては、収入が上がらないと言われ、市としては、デマンド交通でその部分をカバーすることとした。通勤・通学の時間を残していただき、中間の時間帯は撤退された。市としては、路線バスから、デマンド交通とコミュニティバスに切り替えて移動していただく施策としてやってきた。おっしゃっていたいただいた路線にバスを走らせようとするコミュニティバスとデマンド交通が同じように走らせられなくなるという影響と路線バス事業者は、利用される方がどれくらい見込まれるかによって判断されますので、現時点では難しいと考える。
委員	空き家相談センターを立ち上げられて、きめ細やかな対応ができるということで、相談件数も伸びているが、相談の中身の質に変化などはないか。意見としては、定住人口だけでなく交流人口という切り口が重要であると考え。重伝建地区が出来て外から来られてお店を出されている動きも出てきているが、今後、観光の拠点となるような地域については、交流人口のトレンドもグラフなどで加えてもらえると戦略も練りやすいのではないかと考える。牡蠣シーズンや山城の取組も含めて見ていければと考える。委員から農業の話もあったが、今般のコロナでネット販売も広がっているので、通販・ICTももっと利用できないかと県も考えている。観光農園が痛手を受けており、西播磨のフルーツを束にして売り出していこうという動きがある。赤穂のみかん、相生のメロン、たつの梅、イチゴ、宍粟にはりんごがある。そういったものを束にしてシーズンごとに果物をセットにして送るのも一つだし、スイーツにするのもいいのではと考えている。
事務局	空き家相談センターでの相談の中身も変わってきている部分がある。空き家相談センターがない時代は、空き家についての相談に職員が対応していたため、不動産事業者へつなぐだけであったり、それ以前に、どこの事業者につなげばいいのかという問題もあり、なかなか話が進まない場合もあった。空き家相談センターは、不動産事業者が関わっていただいているので、いろんな相談ができ、きめ細やかな対応ができるので、空き家の利活用が進んだり、空き家バンクの登録も増えていった。空き家バンクの登録件数が増えていったことにより、以前は、自分が所有する空き家をどうすればいいのかなどの相談が多かったが、移住を考える方などが、空き家を探す相談も増えてきており、相談の質も変わってきていると聞いている。
委員長	コロナのことや空き家の話も出ていますが、今般のお金の流れで、何か変化はありますか。
委員	住宅ローンの相談件数で言うと、減ってはいない感覚がある。空き家の活用は、今後も重要だと思う。
委員	観光地としては、100万人が1回訪れるまちよりも、1万人が100回訪れるまちを目指した方がいいと考える。そこで一つトレンドとなるのが、空き家の活用である。事例で言うと、福崎町に「蔵書の館」という宿泊施設で、柳田國男ゆかりの古民家を再生して、昨年11月にオープンした。当時は、9割ぐらい稼働率があっ

	た。結構高級であるが、東京など外部から来られ人気を集めていた。コロナ禍で少し落ち込んでいるが、田舎ならではの宿泊施設が都市部の人から求められている。佐用町も「グラミンカ」という古民家を活用した一棟貸しの宿泊施設が出来ているが、夏までの予約がすでにいっぱい取れない状況である。そういう形でいろんなパターンの古い町並みを活用した宿泊施設を備えることで、滞在型観光や同じ場所に繰り返し泊まってもらえるとか、移住まではいかななくても、「そこに行けば泊まってまちを楽しめる」と思ってもらえるような取組を検討していただけたらと考える。
事務局	ちょうど龍野地区の城下町にも、来週、空き家をリノベーションした古民家ホテルがオープンする。今後は、そういった宿泊施設を増やしていく動きもあり、古民家ホテルが集まるようなゾーンがあってもいいのではないかという意見も聞いている。現在、市の方では、龍野地区のまちづくりビジョンを作成しており、そのようなアイデアを参考にさせていただきたい。
協議事項	
(5) 主な取組について	
(6) 国の認定を受け進めた本市の創生戦略事業について	
	(意見なし)
協議事項	
(7) 令和3年度子育て支援施策等について	
(8) アクションプラン事業の一部見直しについて	
委員	たつの市が元気になるには、住んでいる人が結婚して、子どもが生まれて、そして人口が増えていくことが必要かと思う。私は、西播磨県民局のこうのとりおばさんのボランティアをやっている。独身者への働きかけや婚活イベントは、年に1回、2回やっている。たつの市でも、結婚したい人をマッチングするようなきめ細やかな働きかけができる窓口があれば結婚する人が増えるのではないか。
事務局	地方創生というのは、人口減少に歯止めをかけることと経済の活性化の2つに尽きると思っている。たつの市では、子育て施策を手厚くさせていただいて、結婚、出産、子育て環境の充実を図っているところである。これらは、市単独であるが、宍粟市、佐用町、上郡町と定住自立圏の広域的な取組も行っている。2市2町がタッグを組んで、婚活事業を昨年させていただいた。コロナ禍で、参加者の制限はあったが、非常に好評であり、引き続いて広域的な視点も含み、県民局とも連携しながら幅広く展開していきたい。
委員	高齢者おでかけ支援事業はどのような事業か。
事務局	従前では、障害者の方や高齢者の方で家に車がない方などに対しては、タクシー券を配っていたが、家に息子と住まれている方についても、昼間は、息子は働きに行かれていて、車で移動できない方もおられる。そのような方から、日中に何かあった時に、移動するのに何の交通手段もないという声もあり、そういうところにスポットを当てようと。それであれば、75歳以上のすべての方にタクシー券を配ろうということで、県内でもあまり例がないが、緊急時などに使ってもらう意味合いもあり実施した。
委員	タクシー券は、1回に使える枚数が増えたが、市外に行く場合も使えるか。

事務局	使える。市外に病院に行かれる方もいらっしゃるということもあり、1回に使える枚数を4枚に増やした。
委員長	議題では、働く場所や失業状況の話がありましたが、現在の状況はどんな感じでしょうか。
委員	市内の有効求人倍率は、リーマンショック以来、改善し続けていたが、令和元年9月以降は、前年の同じ月を下回っている状況である。令和2年以降は、コロナの影響で前年同月を大幅に下回っている。要因は、求人の減少、採用マインドの低下などが言われている。求職者の状況は、このところ前年同月を上回ったり下回ったりしている状況で、平均してみるとほぼ横ばいである。ただ、コロナの影響で、外出自粛というところで、ハローワークに来られない方がおられるので、有効求人倍率の数字以上に厳しい状況と考えている。コロナ関係での離職者の状況については、ハローワークの窓口の印象では、コロナが理由で離職して、求職申し込みをされている方は、派遣労働者やパート労働者などの非正規で働く方を中心に若干おられる印象で、目立って多い状況にはなっていない。求職者の傾向としては、姫路地域を含めた範囲で、好条件の働き先を探されている印象がある。姫路地域の求人とたつの市の求人を比較すると賃金などの求人条件が、この地域の条件の方が見劣りするところを感じられる。ただ、求職状況が悪化している中でも、人手不足という分野もあり、人材を求めている事業所も多くあり、今、いい人材を確保するチャンスととらえている事業所もある。職場環境の改善がいい人材を確保するための課題となっている事業所もあり、ハローワークの方では、兵庫働き方改革推進支援センターによる事業所支援の周知に取り組んでいる。また、今年4月からパートタイム有期雇用労働法が、中小企業を含めた全企業に適用される。特に同一労働・同一賃金への対応が必要となる。地域の課題としては、若者の地域への定着がある。学生の時から、市内の企業の周知が大事と思うので、今日、資料で見せていただいた「たつので働くサポートブック」を活用して、たつの市にはたくさんいい企業もあるので、紹介していただきたい。
委員	いろんな事業を取り組まれている中で、宣伝・PRが大事だと思っている。若い方は、テレビとかよりYouTubeを見ているので、そういった媒体を発信の場として活用すれば若い方も見られると思う。また、ユーチューバーとコラボすることによって宣伝の効果も生まれると思う。
事務局	たつの市は、やっていることはたくさんあると思うが、PRが十分にできていない部分がある。情報発信については、必要な人に必要な情報をいかに流していくかが重要だと考えている。子育てのまちとして名を馳せている明石市は、子育ての宣伝看板が神戸市内の駅の前にあると聞いた。強引なPR作戦も今後、必要になってくるのではないかと考えている。情報発信の参考にさせていただきたい。
委員	龍野青年会議所では、スポーツを通じた青少年に対しての情操教育や人口の交流事業を企画している。昨年は、たつの市とヴィクトリーナ姫路、龍野商工会議所と4者で協定を締結して、市内のスポーツ振興や交流人口の拡大をさせていただくことに取り組んだ。引き続き、そういった取組をやっていきたい。青年会議所のメンバーは、20歳代から40歳までで、事業主に近い方が多い。たつの市は創業率が低いように見受けられるが、今後、創業支援であったり事業継承がうまく進んでいけるよう取組を一緒にやっていければと考える。
事務局	事業継承については、大きな課題の一つである。跡継ぎがいなくて事業を廃止す

	<p>るという話も増えているように感じており、和歌山県などは、県全体として事業継承について取り組まれているが、他の地域では、同じ仕事を継がなくても、違う仕事をその事業所の場所でやってもらうような場所を継いでもらう形もある。そういったところも含めて、今後、事業継承について研究していきたいので、ご協力やアドバイスをお願いしたい。</p>
委員	<p>創業支援では、商工会も創業セミナーをやっている。たつの市も創業についての支援をしていただける事業をされているが、申込月が毎年5月の年に1回しかなく、その時期過ぎてから創業したいという方は、来年の5月まで待たないといけないので、できれば年2回ぐらい応募の時期があってもいいのではないかと思います。また、昨日、旅館の方と話をする機会があったが、コロナで団体客がほぼない状態で、家族やカップルで来る方ばかりであり、非常に厳しい状況であった。たつの市からも支援をいただき大変助かっているが、特に飲食業と宿泊業は厳しい状況なので、引き続き支援をお願いしたい。</p>
委員	<p>素麺組合では、働きやすい環境づくりとして、いち早くフレックスタイム制を導入した。働きやすい企業づくりを商工会議所としても進めていきたい。市を含めてみんなが協力して取り組むことが雇用創生に一番大事なことだと感じている。</p>
委員	<p>地域の方と話していると子どもさんが都会に出られて戻ってこないとよく聞く。テレワークなどが活発化されているのであれば、テレワークをして戻ってくる人を補助する支援制度もいいと考える。空き家バンクの話があったが、空き家だけでなく、空き畑バンクなどもあれば、県外からの人の呼び込みにもつながるのではないかと思います。</p>
委員	<p>YouTubeの話もあったが、昨今、ユーチューバーのいろいろな事件などもあり、マスコミとしては、安全性の担保が確保されていないものも数多くあるととらえている。ただ、新聞を見る人は減っており、ラジオを聴く人も減っていて、人口自体も減っている。新聞は、WEB上の新聞を出している。ラジオも「ラジトピ」といって、放送した内容を原稿化して、ニュースサイトとして提供している。その時に、新聞やラジオが注意をしないといけないことで、フリーのユーチューバーと違う点は、放送した内容や掲載した内容を必ずWEB上に後付けで掲載している。どれだけネット上で情報発信したとしても、拡散するのはなかなか難しい。ネットでは、Yahooの一人勝ちのような状態である。新聞社やメディアは、Yahooとメディア契約をしている。新聞で取り上げた内容やテレビで放映された内容が、なぜYahooのサイトによく出ているかという、メディア契約をしていて、あくまでもニュース素材などの内容であったら掲載するという理屈がある。宣伝は、なかなか載せてもらえない。マスコミ自体も情報を拡散することには、努力しているところである。たつの市は、たくさん魅力があるので上手く発信していただきたい。</p>
委員	<p>議会を代表して出席しているが、議会は1年で、議長、委員長が変わる。来年は、違う議長、委員長が出席することになると思う。このような会議の内容を議会で周知することは今まであまりなかった。今日は、皆様からいろんなお話を聞かせていただいたが、これからは、このような内容について、議会として何が出来るかを議員で語り合う場を作っていきたい。本日、お話しいただいた内容については、議会へ持って帰り、議会へ発信することを頑張っていきたい。</p>
市長	<p>皆様、今日は、長時間にわたりまして、いろいろとご意見をいただきまして、あ</p>

	<p>りがとうございました。行政だけで、人口減少を止めていくことは、なかなか難しい。民間、団体の皆様等のご意見を聞かせていただき、人口減少対策に対応していきたい。行政は、データの資料やいろいろな施策を上手に作るが、これが本当に市民の方のニーズとマッチしているか、喜んでいただいているかは難しい。我々がやっていることがすべて正解であれば、人口は増えている。うまく作っても発信ができていない。今日は、YouTube の話も出ましたが、例えば、子どもが、ちょっとひっくり返っただけの動画が YouTube で流れたら、何十万回再生されている時代です。発信をうまくやっていないといけない。市の取組をうまく発信し、多くの方に知ってもらい、理解していただき人口の増加につなげていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>議論も尽きませんが、このあたりで締めさせていただきます。本日の協議については、大枠としてこの戦略について了承いただいたものと思っています。今日の意見に係る修正については、事務局との調整を含め、委員長に御一任させていただけたらと思います。</p> <p>これからも、たつの市の発展のために、たつの市の子どもたちが、この先も、住み続けていただくために、皆様のご協力をお願いできればと思います。本日は、誠にありがとうございました。</p>